

プログラム

司 会 10:00

- 日本学術会議会員 依田照彦(早稲田大学教授、防災学術連携体副代表幹事)
日本学術会議会員 米田雅子(慶應義塾大学特任教授、防災学術連携体事務局長)

挨拶 10:01

- 日本学術会議会長 大西 隆(豊橋技術科学大学 学長、東京大学名誉教授)
日本学術会議防災減災・災害復興に関する学術連携委員長 和田 章(東京工業大学名誉教授)
内閣府大臣官房審議官(防災担当) 緒方俊則

学会発表 ※学会としての発表ではなく、個人としての発表の場合もあります

①熊本地震について 10:10 (発表 各13分、グループ質疑 8分)

- 日本第四紀学会 竹村恵二(京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設教授)
日本地質学会 大橋聖和(山口大学大学院創成科学研究科講師)
向吉秀樹(島根大学大学院総合理工学研究科助教)
日本地震学会 清水 洋(九州大学大学院付属地震火山観測研究センター教授)
日本活断層学会 鈴木康弘(名古屋大学減災連携研究センター教授)

②地震に関する情報について 11:10 (発表 各13分、グループ質疑 6分)

- 日本地震学会 岩田知孝(京都大学防災研究所地震災害研究部門強震動研究分野教授)
日本地理学会 青山雅史(群馬大学教育学部准教授)
日本応用地質学会 黒木貴一(福岡教育大学教育学部教授)

昼 食 11:55-12:45

③被災状況と対策について 12:45 (発表 各13分、グループ質疑 10分)

- 土木学会 高橋良和(土木学会地震工学委員会地震被害調査小委員長、京都大学准教授)
日本建築学会 高山峯夫(日本建築学会九州支部災害委員会委員長、福岡大学教授)
地盤工学会 棕木俊文(地盤工学会平成28年熊本地震地盤災害調査団幹事長)
農業農村工学会 鈴木尚登(農研機構農村工学研究部門企画管理部災害対策調整室長)
廃棄物資源循環学会 島岡隆行(廃棄物資源循環学会会長、九州大学大学院工学研究院教授)

④土砂災害・風水害と対策について 14:00 (発表 各13分、グループ質疑 6分)

- 砂防学会 石川芳治(砂防学会前学会長、東京農工大学農学部教授)
日本地すべり学会 中村真也(琉球大学農学部地域農業工学科教授)
日本自然災害学会 寶 馨(日本自然災害学会副会長、京都大学防災研究所長)

休 憩 14:45-15:00

⑤避難・救助・救援について 15:00 (発表 各13分、グループ質疑 8分)

- 日本集団災害医学会 近藤久禎(国立病院機構災害医療センター政策医療企画研究室長)
日本災害看護学会 石井美恵子(日本災害看護学会理事、東京医療保健大学准教授) (予定)
日本看護系学会協議会 山本あい子(日本看護系学会協議会理事、兵庫県立大学教授)
日本地震工学会 目黒公郎(日本地震工学会会長、東京大学生産技術研究所教授)

⑥復旧・復興について 16:00 (発表 各13分、グループ質疑 10分)

- 日本災害復興学会 大矢根淳(日本災害復興学会(関東ブロック学術推進委員長) (予定)
日本計画行政学会 山本佳世子(同学会災害対応研究特別委員会有志代表、電気通信大学准教授)
日本造園学会 池邊このみ(日本造園学会理事・学術委員長、千葉大学大学院教授)
こども環境学会 松本直司(こども環境学会会長、名古屋工業大学名誉教授)
日本地域経済学会 岡田知弘(日本地域経済学会会長、京都大学大学院経済学研究科教授)

総合討論 17:15-17:37

挨拶 17:37

- 日本学術会議副会長 井野瀬久美恵(甲南大学教授)
防災学術連携体 代表幹事 廣瀬典昭(土木学会前会長)

申込み方法

防災学術連携体ホームページからお申込下さい。

<http://janet-dr.com/>

発表資料については報告会前日の夕刻に、上記ホームページに掲載します。

各自印刷してご持参下さい。 ※会場での資料配布はありません。

問合せ先：防災学術連携体 菅原(土木学会) sugawara@jsce.or.jp 03-3355-3443, 小野口 info@janet-dr.com

日本学術会議事務局 鈴木 03-3403-1056

日本学術会議主催公開シンポジウム

熊本地震・3ヶ月報告会

日時…平成二十八年七月十六日(土)午前十時から午後五時四十五分
会場…日本学術会議講堂(東京都港区六本木七丁目二十二番地三十四号)
主催…日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会
共催…防災学術連携体
参加費…無料 定員…三〇〇名

日本学術会議は、平成28年熊本地震を「緊急事態に準じるもの」とした。防災減災・災害復興に関する学術連携委員会は、防災学術連携体(防災減災・災害復興に関する51学会のネットワーク)と連携して、5月2日に熊本地震・緊急報告会を開催し、17学会が調査速報の発表を行い、社会への情報発信・学会間の情報共有を進めた。

その後、熊本地震の余震は継続しており、雨による土砂災害の多発が懸念されている。また、各学会は地震・災害・救援・復興等に関わる調査や支援を続け、多くの知見を蓄積しつつある。

平成28年4月16日に発生した本震から3ヶ月目にあたる7月16日に、日本学術会議と防災学術連携体に所属する学会の代表が集まり、この地震に関して蓄積した正確な情報を発信すると共に、関係者間で更なる情報共有をはかり、今後の防災減災・災害復興のための提案を検討することが重要である。このため、熊本地震・3ヶ月報告会を開催する。



(2016.07.4版)